

学校教育目標	かしこく(知) やさしく(徳) たくましく(体)
目指す学校像	○明るく元気で、笑顔あふれる学校 ○安全な環境で安心して生活できる学校 ○学ぶ喜びを感じ、互いに高め合う学校 ○子ども、家庭、地域から信頼される学校

重点目標	1 生徒指導・道徳教育・人間関係づくり 2 地域と共にある教育活動(学校から地域へ、地域から学校へ) 3 健康教育の推進、食育の推進と教育環境の整備 4 魅力ある学級経営、学ぶ力をつける授業の創造と地域、家庭との連携 5 教職員の研修と働きがいのある職場づくり
------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価	
年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会による評価	
1	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べると概ね満足できる結果である。</li> <li>○日々の学習では、ICT機器を活用し、振り返りや反復練習(ドリル)をしたり、プレゼンテーションソフトを使ってまとめたり発表したりすることに意欲的に取り組む児童が多い。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人研修、目的別チーム研修の体制を構築し、児童の実態に応じた授業改善を継続して行う。</li> <li>○一つの教科担任等で児童一人ひとりの課題を克服することは難しい。全国、市の学習状況調査を学校全体で分析し、カリキュラムマネジメントを意識した指導体制を構築する。</li> </ul>	○基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的別チーム研修の体制を構築し、児童の実態に応じた授業改善を行う。</li> <li>○朝の時間を使い、国語と算数を中心とした基礎基本の繰り返しと定着を図る。</li> <li>○全国及び市の学習状況調査について、分析を行うとともに、市教委によるカウンセリング研修を受けることで、より効果的な手立てを設定し基礎学力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調査結果の分析を踏まえ、授業改善の視点、手立て等を学年ごとに設定することができた。</li> <li>○学校評価アンケートにおいて「学習」に関する項目に対し、児童の肯定的な回答70%以上(R6:64%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国学力・学習状況調査および市の学習状況調査において、国語・算数ともに全国平均、市平均と比較して概ね満足できる結果であった。市教委によるカウンセリング研修を全職員で受け、調査結果を学校全体で共有・分析し、学年ごとに授業改善の視点や手立てを整理する取組を進めることができた。</li> <li>○朝の時間を活用した国語・算数の基礎基本の反復学習に継続的に取り組み、学習内容の定着を図る体制を整えた。</li> <li>○学校評価アンケートにおける「学習」に関する児童の肯定的な回答は62%にとどまり、目標値である70%には到達しなかった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的別チーム研修としての組織的な授業改善がまだ十分に機能していない。全国および市の学習状況調査結果を基に、目的別チーム研修において学校全体で授業改善に取り組む体制を強化する。</li> <li>○基礎基本の定着を図り、学力は一定水準にあるものの、子どもたちが自身が「分かった」「できた」「学ぶことが楽しい」と実感できる授業づくりが十分とは言えない。市教育委員会によるカウンセリング研修、指導訪問等を積極的に活用し、エビデンスに基づいた具体的な手立てを学年・教科で共有する。</li> </ul>	○授業に関する教職員の自己評価が低下している点について質問があり、職員の入れ替わり等の影響が指摘された。	
2	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育相談については、肯定的な意見が児童81%、保護者95%、教職員100%で、全体的に高い結果である。</li> <li>○いじめ防止に関しては、肯定的な意見が児童93%、保護者91%、教職員100%である。いじめ認知が積極的に展開され、いじめの重大事態が起こることがなかった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○重大事故はないものの学級・学年内の児童同士のトラブルは課題である。</li> <li>○教育相談について児童の割合が低いことが課題であり、多様な児童のニーズに応えられていない場面があることが考えられる。</li> <li>○一人ひとりのよさを認め合う人間関係の構築を促していくことが今後必要である。</li> </ul>	○チーム蓮沼として行う生徒指導・教育相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導・教育相談での教職員間の共通理解を図る場の設定、SC、S・SSWと連携を図った教育相談体制の更なる充実。</li> <li>○児童の成長を支える教育相談の充実(スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等関係機関との連携)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童理解研修を年間2回以上実施することができた。</li> <li>○学校評価アンケートにおいて、児童【教育相談】の項目に対し、肯定的な回答85%以上(R6:81%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導・教育相談について、教職員間での情報共有や協議の場を設け、共通理解を図ることができた。</li> <li>○スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーと連携し、専門的な視点を生かした教育相談体制の充実を進めることができた。</li> <li>○児童理解研修は年間2回以上実施できた。一方、学校評価アンケート【教育相談】における児童の肯定的な回答は80%で、目標値(85%)には届かなかった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育相談の取組を、教職員間でより一層共有し、組織として一貫した対応ができる体制づくりが課題である。次年度は、事例を基にした研修やケース会議を計画的に実施し、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携をさらに強化する。</li> </ul>	○児童の相談体制について、教科担任制導入により担任に相談する機会が減っているのではないかと指摘があったが、相談体制の開口を広げ、多くの教職員で児童を見守れることの重要性が挙げられた。	
3	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○元気なあいさつについては、肯定的な意見が児童の91%、保護者74%、教職員100%であった。</li> <li>○集団生活のルールやマナーについては、児童、保護者、教職員ともに96%以上の肯定的意見であった。</li> <li>○思いやりの行動についても児童、保護者、教職員ともに96%以上の肯定的意見があった。</li> <li>○手紙配信アプリ、学校安心メールを活用しながら、学校から積極的に保護者が求める情報を必要な時に提供できる体制を構築できた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつについては、自発的なあいさつに課題がある。個々の児童に合った支援の方法や地域家庭との連携が重要である。</li> <li>○個人情報配慮しながら、児童の学校での様子を発信できる方法を検討していく必要がある。また、保護者、地域の方々の学校行事への参加できる機会を増やしていく必要がある。</li> </ul>	○地域との連携・協働による児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講話朝会、学校だより等を活用したあいさつの啓蒙</li> <li>○毎週月曜日の児童会主催のあいさつ運動の実施</li> <li>○蓮沼小のやくそくの児童・保護者・教職員の共通理解のもと、指導・支援を行う。</li> <li>○あいさつ運動や日常的な指導のみならず、児童会活動、道徳の指導、生徒指導など総合的な視点から児童、学校、家庭、地域で連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価アンケートにおいて、【あいさつ】の項目に対し、保護者の肯定的な回答が80%以上(R6:74%)</li> <li>○あいさつ運動を学期に8回以上実施できた。</li> <li>○学校評価アンケートにおいて、【集団生活】の項目に対し、保護者の肯定的な回答98%以上(R6:96%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講話朝会や学校だよりを通して、あいさつの大切さを継続的に発信するとともに、毎週月曜日の児童会主催によるあいさつ運動を実施した。</li> <li>○「蓮沼小のやくそく」について、児童・保護者・教職員の共通理解のもとで指導・支援を行い、児童会活動や道徳、生徒指導と関連付けた取組を進めた。</li> <li>○あいさつ運動は学期8回以上実施できた。一方、学校評価アンケートにおける【あいさつ】の保護者の肯定的な回答は78%で、目標値(80%)には届かなかった。【集団生活】の項目については95%と高い評価を得ているが、目標値(98%)には未達であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつの意義や成果が、学校内外に十分伝わりきっていないことが課題である。次年度は、児童会活動を中心に、子ども自身があいさつの価値を実感できる取組を工夫するとともに、家庭や地域と連携したあいさつ運動を一層推進する。</li> <li>○日常の集団生活の中で育まれている良さを可視化し、学校・家庭・地域が共通理解のもとで子どもたちを支える体制づくりを進める。集団生活のルールやマナーを大切に、気持ちよい学校づくりに努める。</li> </ul>	○あいさつの状況は、地域と校内で差があり、時間帯・生活習慣などの影響も考えられるという意見が出た。	
4	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○定期的な安全点検の報告を通して、優先順位をつけて設備の修繕を実施することができた。点検のポイントを具体的に明記したことで早期発見につながった。</li> <li>○複数の目による点検を実施したことで、校舎内の安全対策を早期に実施することができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○施設面において大きな事故はないものの、開校5年目を迎える老朽化している箇所もあり教職員、児童の安全に対する意識を高めながら未然防止を図ることが課題である。</li> </ul>	○施設管理の徹底による、安心・安全で衛生的な学習環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設設備管理に対する教職員の危機意識を向上させるため、担当箇所の点検方法(点検のポイント、報告手順)に関する講習会を5月末までに実施する。</li> <li>○月1回の安全点検、巡視による校舎内施設設備の点検(毎日)、屋外点検(週1回)の結果を市教育委員会と連携し、2週間以内に安全対策を行う。</li> <li>○安全朝会、講話・生活朝会により防犯、交通、防災等の安全教育に関する講話を各学期1回実施し、児童の危機回避能力を育成する。</li> <li>○清掃活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価【校内美化・学校安全】「学校は、校内美化に努め、安全な学習環境を整えていると思いますか。」の項目に対し、保護者の肯定的な回答96%以上(R6:94%)</li> <li>○月1回の安全点検、巡視による校舎内施設設備の点検(毎日)を実施できた。</li> <li>○学校評価【校内安全】の項目に対し、児童の肯定的な回答99%以上(R6:98%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設設備の管理に関して、担当箇所の点検方法について、安全部を中心に講習会を5月末までに実施した。</li> <li>○月1回の安全点検、巡視による校舎内施設設備の点検(毎日)、屋外点検(週1回)の結果を市教育委員会と連携し、2週間以内に安全対策を行うことができた。</li> <li>○安全朝会、講話・生活朝会により防犯、交通、防災等の安全教育に関する講話を各学期1回実施した。</li> <li>○衛生的な学習環境を充実させるために、学級指導や委員会活動において清掃活動の充実を図ることができた。学校評価における【校内美化・学校安全】の保護者の肯定的な回答は96%で、目標値に到達することができた。児童の肯定的な回答は、97%で目標値(99%)には到達することができなかった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全朝会や講話朝会により、防犯、交通、防災等の安全教育の講話を通して、児童の安全意識を高めることが十分ではないことが課題である。子どもたち自身の安全意識を高める講話や指導・支援を充実させるようにする。</li> <li>○児童自身が進んで清掃活動に取り組むことができるような工夫が十分でないことが課題である。学級指導や委員会活動を通して、清掃活動を充実させ、衛生的な学校づくりに一層努めていく。</li> </ul>	○児童は清掃に真剣に取り組んでおり、努力しているという評価があった。	
5	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○研修内において、授業のスキルの向上を図るために、様々なキャリア段階の教員が交流、情報交換できる場を設定できた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学級全体やグループ等では学習を進めることができるが、児童一人ひとりの活動では、自信をもって進めることができない児童がいる。自立した学習者の育成のためにも自己肯定感や自己有用感を高める必要がある。</li> </ul>	○児童一人ひとりのWell-beingを実現するための教育活動の推進し、教職員の資質向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童一人ひとりの良さを見つけ、資質の向上を図り、指導・支援ができるように、最新の教育情報を提供するため、課題研修と連携して年間に8回以上情報共有の時間を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修等を活用して年間8回以上情報共有の時間を設定できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題研修と連携し、児童一人ひとりの良さを見つけ、的確な指導・支援ができるように、教職員の資質向上に努めることができた。最新の教育情報を提供するため、職員集会や職員会議、学校課題研修の時間を使い、年間に8回以上情報共有の時間を設定することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員の資質向上については、さまざまなキャリア段階の職員がいる中、十分ではないことが課題である。学校課題研修の更なる充実を図り、最新の教育情報を提供できるようにする。児童一人ひとりの良さを見つけ、児童に対して適切な指導・支援ができるように一層努めていく。</li> </ul>	○教員の自己評価が低い点について、もっと自信をもって取り組んでよという励ましの意見が出た。	
		○児童に合った授業のスキルの向上を図るために、様々なキャリア段階に応じた研修の場の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別最適な学び・協働的な学びの推進のために情報を収集し、Teamsや回覧等で全教職員に情報提供、職員集会、課題研修等で補足の説明を行う。</li> <li>○児童が活躍できる場や機会を設定する。</li> <li>○児童それぞれのよさを生かせる場面を設定したり、認め励ます指導や声掛け、適切な評価等をしたことで、自己肯定感や自己有用感を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価アンケートにおいて、保護者・児童において【個性の伸長】の項目に対し、肯定的な回答90%以上(R6:88%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別最適な学び・協働的な学びの推進のために情報収集を行い、適宜Teams等で情報提供を行うことができた。学校課題研修の時間を使って、主体的な学び、探究的な学びについての理解を深めることができた。</li> <li>○児童がそれぞれのよさを生かせる学級づくりや場の提供、認めて励ます声かけを多く行うよう心がける教職員が増えた。学校課題研修を通して自立した学習者となれるような授業づくりに努めた。</li> <li>○学校評価における【個性の伸長】の保護者の肯定的な回答は93%、児童の肯定的な回答は89%となり、児童においては目標値(90%)に到達することができなかったが、いずれも昨年度よりよい結果となった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童にあった授業スキルの向上を図るためより一層の学校課題研修やキャリア段階に応じた研修の充実を図っていくことが必要である。</li> <li>○児童自身が教職員によさを認められたと、より実感できるようにしていくことが重要である。保護者ともより一層の協力体制を構築し、地域、保護者、教職員が一体となって子どもたちを育てていく意識を高められるようにする。</li> </ul>	○児童が学習に意欲的に取り組んでおり、家庭でもタブレット学習が進んでいるとの意見があった。	

学校運営協議会による評価

実施日令和8年2月12日

学校運営協議会からの意見・要望・評価等